
時に始まるその事象

はくれい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時に始まるその事象

【Nコード】

N6546P

【作者名】

はくれい

【あらすじ】

数年ぶりに戻ってきた町。

なにも変わっていない、今でもそこを見るだけで昔の事を思い出す。すると一つの鈴の音が聞こえた。何故かその鈴の音に心をゆだねてしまう。

目をつむり開けるとそこには少女がいた。

第壹鈴：始まりの鈴の音

りん。

耳に入る鈴の音。

りんりんりん。

止まる事を知らない鈴の音、まるで子守歌のように俺の耳を通り体に心に伝わった。

りんっ。

鈴の音が止まる。

眠ろうとした瞼が突然聞こえなくなった鈴の音を探すようにゆっくりと半目で開いた。

2

「おはようございます」

目の前には少女がいた。黒と白を基調とした学生服赤いネクタイが特徴的だ。彼女の髪にはリボン型の鈴が付けられていた。どうやら鈴の音の正体はこの少女のようだ。

「だれ・・・？」

この時は少し無愛想だったと思う。

「こんな所に寝てちゃだーめなんだあ」

誰と聞いたのに……。

まあ、今、俺が寝ているところが問題か、木の上だもんな。

というか、結構高いぞ

ここ。

10メートル以上は優にあるであろう大樹。

そのとにかく太い枝に寝転がっている。

「とにかく降りなさい」

四つん這いの体制になりながら俺に人差し指で差す。

まあ、しゃあない。降りるとするか……。

少し溜息を吐きながら俺は枝からジャンプして降り立った。

「ふへっ!?!」

降り立った途端に少女の間抜けな声が出た。

ふと上を見ると少女は体制を崩し枝から落ちかけていた。

いや……すでに落ちていた。

「マジかよっ！」

俺は気づけば瞬間的に出せる限界の速さを出し少女を受け止める体制を取ろうとした。

が………

体制を整えた直後上を見ると、そこには俺の受け止める手に向かうのではなくちょうど振り向いた俺の顔に一直線に向かう靴の底だった……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6546p/>

時に始まるその事象

2011年1月13日02時57分発行